平成22年度に実施した事務事業の評価

番号	26012	事務事業名	障害者医療事業	所管課	国保医療課

総合計画体系（後期）			
	部	5	市民の健康づくり・福祉の向上
	章	4	障害者福祉の充実
	節（施策）	1	障害者の地域生活の向上

【将来像】

節（施策）の目的です。後期基本計画の施策の将来像を確認し、転記してください。

住み慣れた地域で、共に支え合い、障害者が自分らしく安心して暮らせるまち

【事業の内容】

誰・何に対して、どんな手段を実施していますか（しますか）？

障害者医療受給者の診療費の保険者負担以外の医療費の助成（県補助事業：１／２、所得超過分は市単独）を行う。（自己負担額及び保険外対象費用は除く）障害者医療償還払い、障害者医療審査委託、過誤調整、不当利得、高額療養費請求、予算決算作成。

事業費（単位：千円）		21年度決算	22年度決算	23年度予算
事業費合計		188,619	188,475	223,906
財源内訳	国・県支出金	70,258	71,264	101,710
	地方債			
	その他	13,534	21,596	1
	一般財源	104,827	95,615	122,195
財源名	国・県支出金	県補助金	県補助金	県補助金
	地方債			
	その他	諸収入	諸収入	諸収入

【事業の効果】

誰・何がどのような状態になることを目指していますか？

事業の根幹は県補助事業であるため、認定、給付ともに規定があり、独自に目標設定を行うことができない事業である。このため、事務効率を向上させ、無駄なく、正確に事業を行うことを目指す。

指標名（成果指標）	説明・算定式	単位	実績の推移			22年度		目標値			
			19年度	20年度	21年度	目標	実績	23年度	24年度	25年度	26年度

平成22年度に実施した事務事業の評価

22年度 実施計画	障害者医療受給資格の認定、医療費の支給業務について適正に事務執行するとともに、高額療養費支給について、保険者からの給付が受けられるものについて適確に把握し、請求し収納率の維持・向上を目指す。
実施結果	実績となる数字も入れて、分かりやすく 障害者医療受給資格の認定、医療費の支給業務について適正に事務執行するとともに、高額療養費支給について、保険者からの給付が受けられるものについて適確に事務を遂行した。

【一次評価(担当課から)】

必要性の評価		その評価をした理由
市民のニーズはどうなっていますか？ 1　向上している　2　変わらない　3　低下している	評価 2	事業の根幹は県補助事業であるため、基本的に市民ニーズを反映する事業ではない。
民間、国、県、市が行う他の事務事業と 事業の目的や成果が重複していませんか？ 1　重複していない　2　一部重複している　3　重複している	評価 2	重度障害者事業は県補助事業。県事業の対象外となる所得超過者について宗像市独自で補助している。
有効性の評価		**その評価をした理由**
目的に対しての成果はどうなっていますか？ 1　向上している　2　変わらない　3　落ち込んでいる	評価 2	事業の根幹は県補助事業であるため、認定、給付ともに規定があり、独自に目標設定を行うことができない事業である。
市民参画協働の推進や、 社会情勢の変化などに対応できていますか？ 1　対応できている　2　対応の必要がない　3　対応できていない	評価 2	該当しない。
効率性の評価		**その評価をした理由**
コスト効率はどうなっていますか？ 1　向上している　2　変わらない　3　低下している	評価 2	事業の根幹は県補助事業であるため、認定、給付ともに規定がある。効率性を評価する事業ではない。
公平性の評価		**その評価をした理由**
特定の受益者に偏っていませんか？ 1　偏っていない　2　法律や条例でやむを得ず偏っている 3　偏っている	評価 2	対象の認定に規定がある。認定を受けた者のなかで、特定の受益者となり得ることが考え難い。

総合評価と今後の方針			具体的な改善策
内容	維持	受給資格の認定、医療費の支給業務について適確かつ迅速に行うため事務の効率化を図る。	事務の棚卸しを行い、どの事務作業に負荷がかかっているか、合理化が可能か否かを調査する。電算化、あるいはシステムのカスタマイズで合理化できるものは適宜予算化し改善する。
予算	維持		

【平成24年度に向けての二次評価(最終評価)】

理由及び検討事項		
内容	維持	今後も効率的、効果的に実施する必要がある。
予算	維持	